

ヘルスマーター

聞こえづらいを放置しない

「テレビの音が大きくなってきた」「聞き返すことが多くなってきた」「会議等で人が大勢いると話が分からない」等の自覚はありませんか。難聴を自覚したら、まずは耳鼻咽喉科を受診してください。

単純に耳垢(じこう)で耳が塞がっているだけの可能性もありますが、聴力検査をすると、どういう難聴がある程度判断できます。

中耳炎や耳硬化症、突発性難聴等の病気が見つかることもあります。中耳炎や耳硬化症、突発性難聴等の病気が見つかることもありますが、老化による聴力低下の方が多くいます。加齢性変化の範囲である場合は、根本的な解決が難しい可能性があり、諦めてしまう方もいますが、難聴を放置して良いことはありません。

加齢性難聴の場合は、程度にもよりますが、基本的には補聴器を勧めています。補聴器使用でも完全に聞こえが良くなるわけではありませんが、補聴器が良い方向に生活を変えてくれます。

市立病院では、補聴器業者と一緒に補聴器外来を行っています。補聴器は眼鏡とは違い、装着した瞬間から聴力を補正することはありません。時間をかけて脳と聴器を調節して、聴力を補正してくれます。

補聴器は機械ですので定期的なメンテナンス、クリーニングが必須です。それに合わせて当科にて耳内診察をさせていただきます。

聴力低下の程度によっては身体障害者の申請ができます。また、補聴器を導入した際に、補聴器適合に関する総合診療提供書と領収書があれば医療費控除を受けられます。難聴により、会話が億劫になり活動性が低下すると認知機能の低下につながることもあるため、補聴器を適正に使用し、健康寿命を延ばし生活しましょう。